

2010年度 第2四半期決算説明会

イオンディライト株式会社

代表取締役社長 堤 唯見

2010年10月7日



目 次

- § 1 2010年度第2四半期累計の実績と総括
- § 2 2010年度下期の取組み
- § 3 2010年度業績予想
- § 4 参考資料

§1 2010年度第2四半期累計の実績と総括

AEON delight



3

第2四半期累計 決算のポイント

第2四半期連結累計期間において、
経常利益・四半期純利益は、**過去最高益を更新**

単位:百万円

	2010年度第2四半期累計				
	期首予想数値	実績数値	売上比 (%)	期首予想比 (%)	前年同期比 (%)
売上高	73,000	68,885	100.0	94.3	94.5
営業利益	5,000	5,021	7.3	100.4	102.9
経常利益	5,000	5,053	7.3	101.0	104.0
四半期純利益	2,600	2,770	4.0	106.5	106.9

4

AEON delight

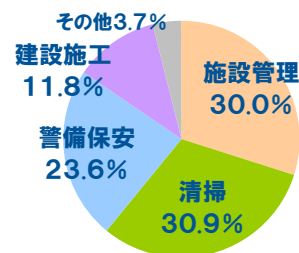


セグメント別売上構成

単位:百万円

	2010年度 第2Q累計	2009年度 第2Q累計	前年 同期比 (%)
施設管理事業	20,669	21,227	97.4
警備保安事業	16,225	17,328	93.6
清掃事業	21,260	23,071	92.2
建設施工事業	8,136	8,585	94.8
その他	2,593	2,640	98.1
売上高合計	68,885	72,856	94.5

2010年度第2Q累計



◇「その他」は、ビルメンテナンス部門その他事業とその他営業収入を合算したものです。

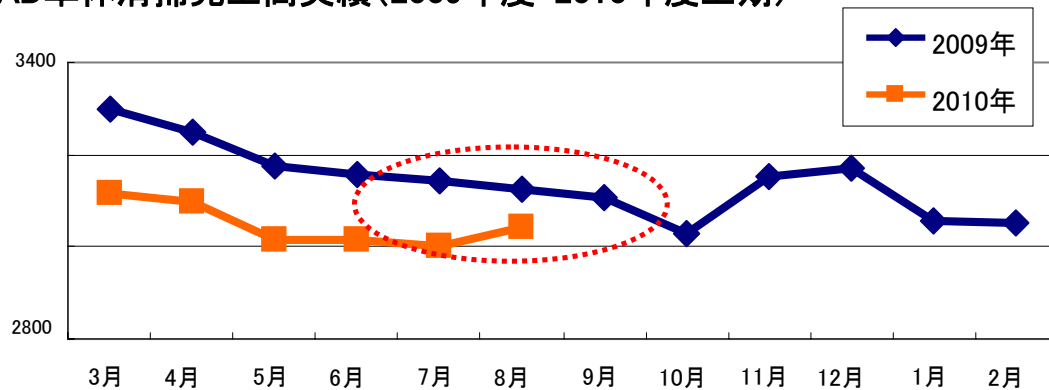
AEON delight

5

セグメント別トレンドに変化の兆し

AD単体清掃売上高実績(2009年度-2010年度上期)

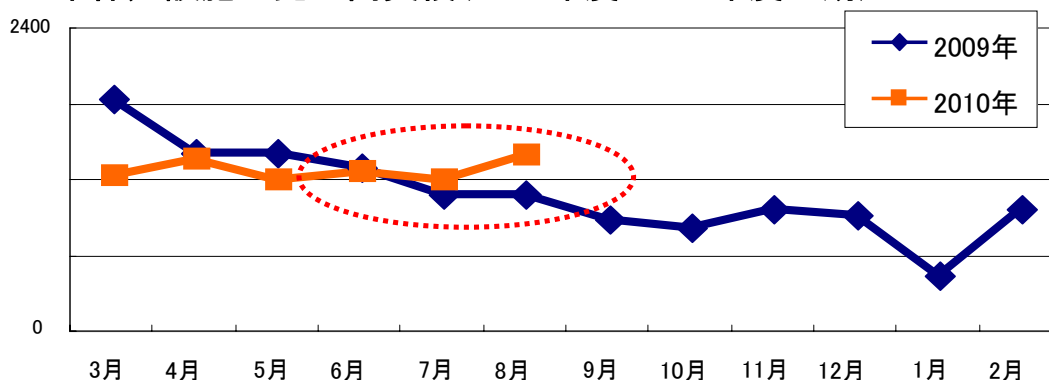
単位:百万円



上期に下げ
止まり傾向

AD単体建設施工売上高実績(2009年度-2010年度上期)

単位:百万円



6月から3ヶ月
連続で昨年を
上回る実績

AEON delight

6

(要約)第2四半期累計連結損益計算書

単位:百万円

	2010年度2Q				2009年度2Q	
	金額	売上比 (%)	前期比 (%)	増減額	金額	売上比 (%)
売上高	68,885	100.0	94.5	▲3,971	72,856	100.0
売上原価	58,291	84.6	93.7	▲3,897	62,188	85.4
売上総利益	10,593	15.4	99.3	▲74	10,667	14.6
販管費	5,572	8.1	96.3	▲213	5,785	7.9
営業利益	5,021	7.3	102.9	139	4,882	6.7
経常利益	5,053	7.3	104.0	197	4,856	6.7
四半期純利益	2,770	4.0	106.9	179	2,591	3.6

7

AEON delight 

(要約)連結貸借対照表 連結キャッシュフロー計算書

連結貸借対照表

単位:百万円

	2010年 8月31日現在	2010年 2月28日現在	増減額		2010年 8月31日現在	2010年 2月28日現在	増減額
流動資産	32,488	30,026	2,462	流動負債	16,349	16,281	68
固定資産	18,364	18,644	▲280	固定負債	837	1,024	▲187
有形固定資産	2,705	2,741	▲36	負債合計	17,186	17,306	▲119
無形固定資産	11,523	11,924	▲401	純資産合計	33,666	31,364	2,301
投資等	4,135	3,977	158	負債・純資産合計	50,852	48,670	2,182
資産合計	50,852	48,670	2,182				

連結キャッシュフロー計算書

単位:百万円

	2010年度 2Q累計	2009年度 2Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,076	2,275
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,479	81
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲637	▲3,708
現金及び現金同等物の増減額	▲1,038	▲1,348
現金及び現金同等物の期首残高	7,873	6,970
現金及び現金同等物の期末残高	6,835	5,621

営業活動CF

税引前四半期純利益	48.8億円
売上債権	▲14.1億円
法人税等支払額	▲20.8億円

投資活動CF

定期預金減少額	▲4.2億円
関係会社消費寄託の預入れ 及び返還額の純額	▲18.2億円

財務活動CF

配当金支払	▲5.9億円
-------	--------

8

AEON delight 

第2四半期累計期間の新規就業実績

営業の体制強化と積極的な推進により、
様々な用途の施設で幅広いお客さまにサービスを提供



インテックス大阪 様
(国際展示場施設)



成田空港
第二旅客ターミナル 様



ヘンケルジャパン
アジアテクノロジーセンター 様



愛知県総合庁舎 様

AEON delight 

9

第2四半期累計期間の取組み

“御用聞き運動”による提案活動の推進

▶お客さま目線での提案活動を推進

提案件数は48,000件超
(前年下期比較136%)

CO2削減への取組み

▶省エネ法改正に対応した
Ad-TEMS*の拡販

5月からの獲得実績11社・1,133事業所
下期では7,000箇所拡大を目指す

*Ad-TEMS (イオンディライト・トータル・エネルギー・マネジメント・サービス)
企業全体のエネルギー使用量の一元管理と、定期報告書作成をサポートするサービス

海外事業の拡大に向けた取組み

▶中国華南地区で就業開始

5月、ジャスコ朝北大悦城店(北京市)就業開始

7月、イオン順徳ショッピングセンター(広東省)就業開始

➡ 新しい試みである清掃方式SLA契約を導入

10

AEON delight 

第2四半期累計期間の取組み

コア事業のビジネスモデル改革への取組み

清 掃

▶イオンディライト清掃モデルの水平展開 導入店舗数
(09年度)61店舗→(10年度累計)133店舗へ

施設管理

- ▶ワークスケジュール管理の徹底による生産性向上
- ▶巡回車両にGPS機器を搭載し、ルート効率化

巡回センター売上総利益率
前年同期比 5.8%改善

人材育成の推進に向けた取組み

3月開所

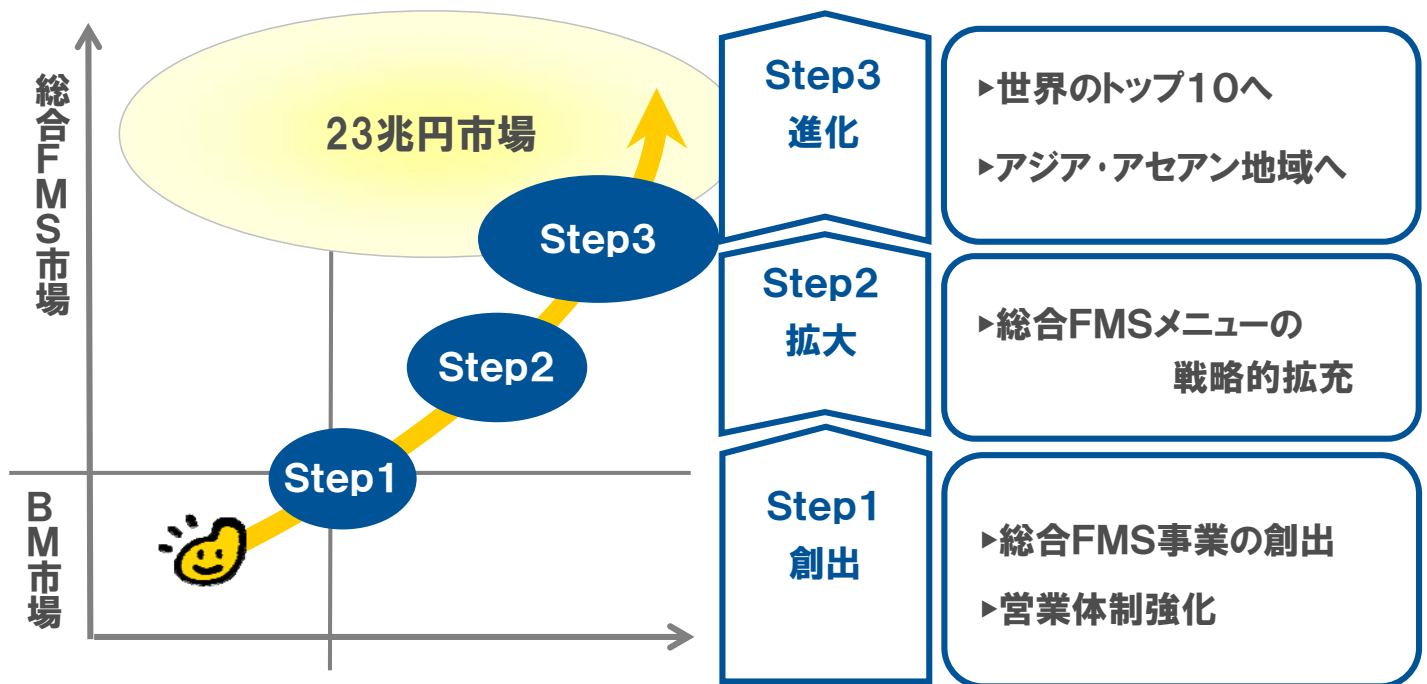
イオンディライトアカデミーながはま

- ・次世代幹部育成に向けたマネジメント研修
- ・官・学と連携した次世代技術の研究



§2 2010年度下期の取組み

総合FMS事業確立に向けた新たなステージへ



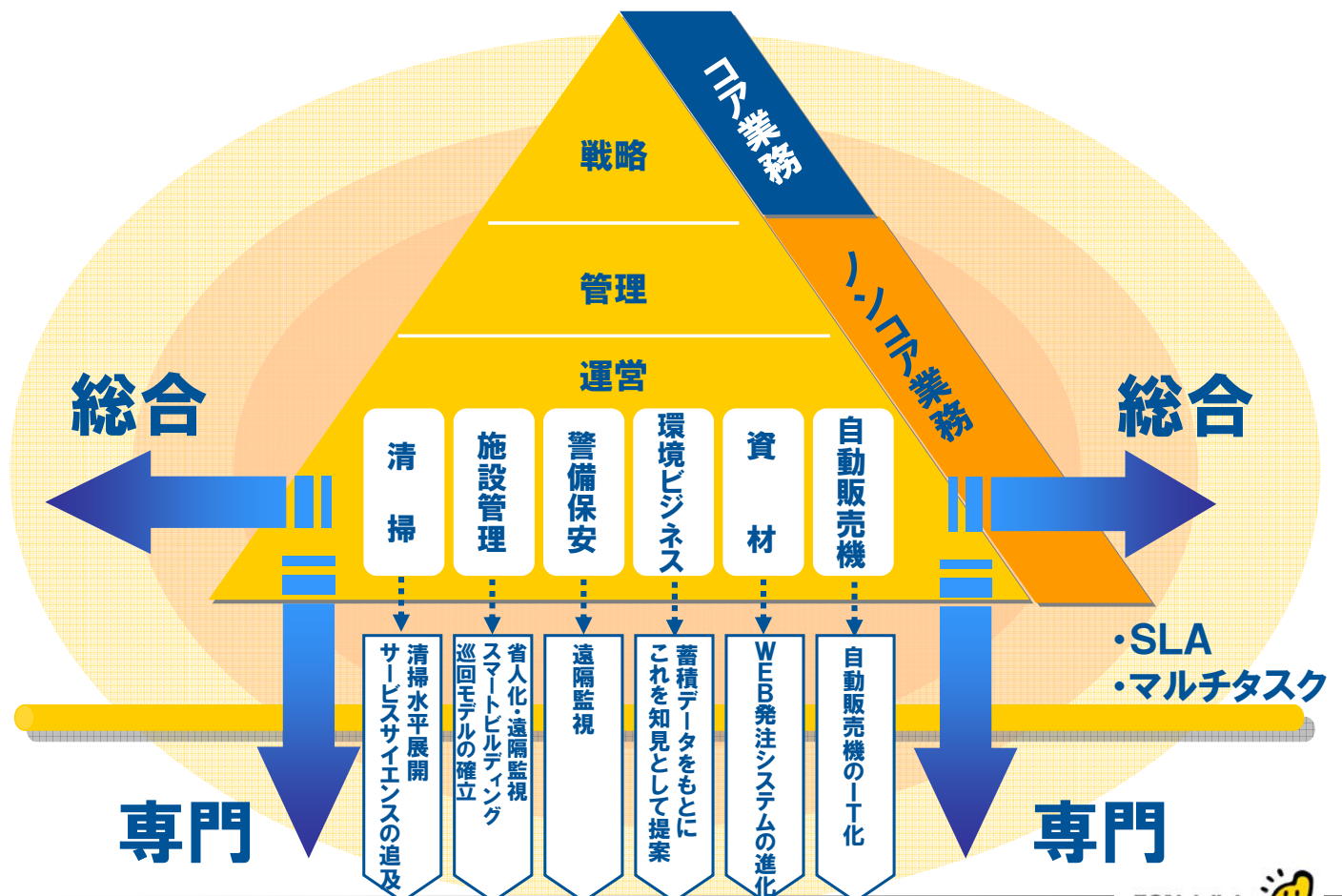
13

AEON delight

総合FMS事業の「総合」と「専門」

総合

専門



14

AEON delight

① 総合FMS事業の訴求と営業推進

総合FMS事業創出

- ▶ 総合FMS事業推進室新設
- ▶ 媒体PRやダイレクトメールによる訴求
- 7～8月で 2,100社送付

個別訪問ターゲットを選定

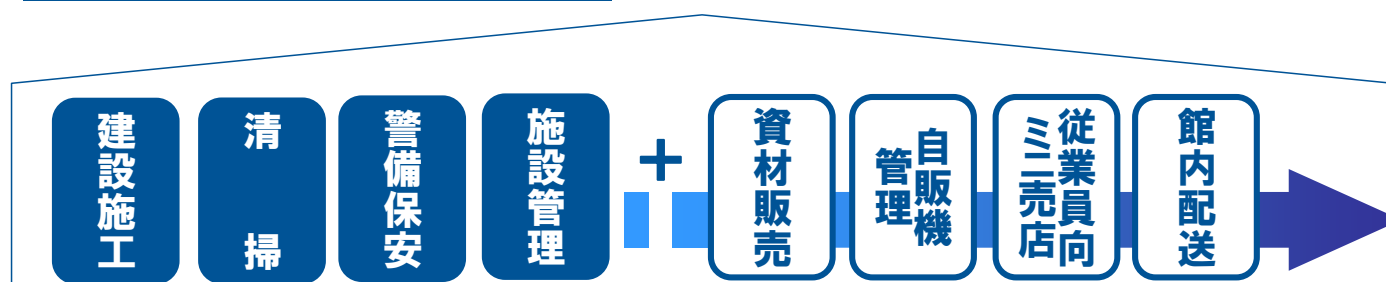
- ▶ グローバル化を推進している企業
- ▶ 自社事業の再構築を行なっている企業や学校・病院
- ▶ 地方分権化が進む地方公共団体など

各種見積り提案

- ▶ デューデリジェンスによる企業・施設の分析
- ▶ コンサルやアドバイザー方式による提案

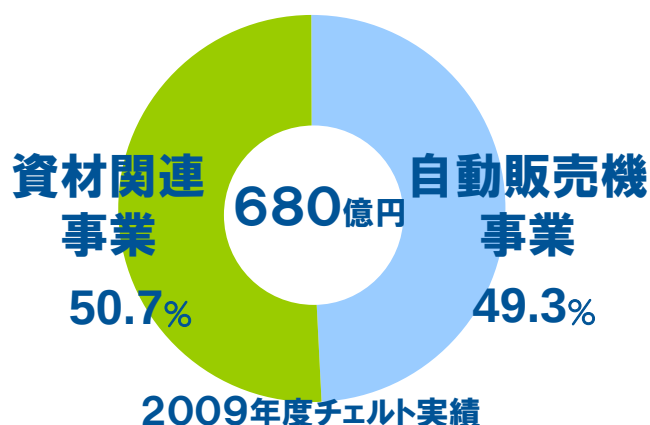
② 総合FMSのモデル店舗、確立に向けて

商業施設の合理化、効率化に貢献



新たに加わった事業(バックオフィスサポート事業)

① バックオフィスサポート事業の概要



主な商品・サービス



② バックオフィスサポート事業の取り組み内容

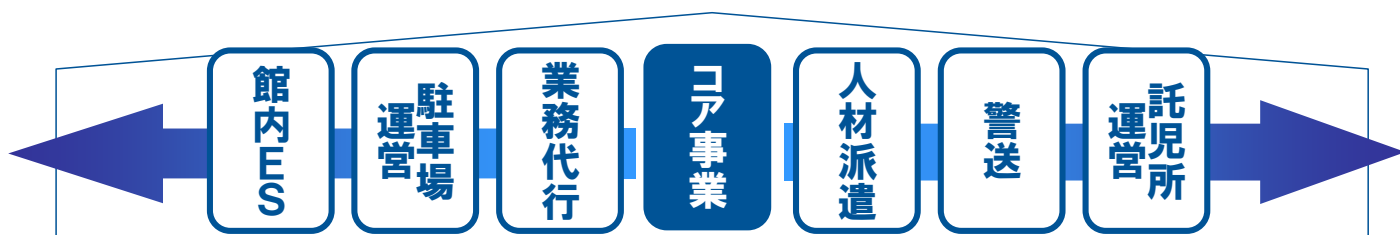
資材関連

- ▶ 環境配慮型素材によるCO2削減への取り組み推進
- ▶ WEB発注システムの強化
- ▶ POSデータを活用した商品管理
- ▶ 自動販売機のIT化

自動販売機

顧客領域・
売上拡大策の実施

① 総合FMS事業メニュー拡大への取組み



② あるべきコールセンターモデルの構築へ



ソリューションセンター

さらなる
機能の強化

コールセンターPT設立

今期中の確立を目指す

③ マンション事業強化への取組み

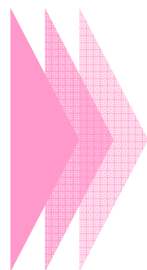
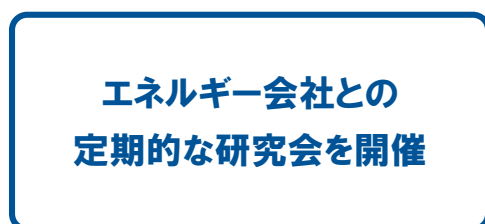
マンション事業部の設置



新たなビジネスモデル、成長の可能性

環境ビジネスの取組み

① 環境ソリューションへの取組み強化



例) 大型商業施設へ

イオンディライト

+

電力会社



ESCOモデルを提案

省エネ機器の導入 + 最適なオペレーション

② 新たな環境ソリューション営業の推進

環境負荷低減に向け官・民で
スマートグリッド、スマートシティを推進



スマートビルディング確立に
向けたプロジェクトへの参画

中期的視野で既存事業のイノベーションを研究

① スマートビルディングへの取組み

- 収集データの分析により、数値に見える化した省エネの提案
- 使用頻度等による耐久年数の予測
- 事故予防策の提案



【ネットワーク活用イメージ】

② SLA確立に向けた取組み

- 清掃作業の「回数」や警備人員の「ポスト数」といった仕様から「細菌数」や「事件・事故件数」といった新たな評価基準を用いた仕様を検討

＊SLA(サービス・レベル・アグリーメント)

清掃回数といったものでなく、細菌数や光沢値などを数値化し、サービスレベルをコミットするもの

M&Aへの積極的な取組み

総合FMS事業のメニュー拡充と
コア事業の強化に向け、M&Aの推進体制を強化



① 足らざる機能の獲得を目的としたM&A

② 成長のスピードを加速するためのM&A

③ 環境ビジネスの拡大に向けたM&A



① 就業先の拡大

- ・ 9月
イオンモール天津TEDA 受託
- ▶ 1年後に中国で
4→10店舗へ拡大

② 営業戦略

- ・ 環境ビジネスを中心に事業拡大
- ・ ベトナムでの事業の可能性を調査

経営統合シナジーの早期発揮に向けて

① 売上高拡大に向けたクロスセル営業の推進

- ▶ 経営統合に先んじて約300社へ訪問
→ 引き続き、2,000社へ営業推進

ビルメンテナンスやCO2工事提案、
自販機、資材での取引開始

② 仕入先の集約による仕入原価の削減

- ▶ 両社の既存仕入先を集約

仕入原価の削減
年間ベース 3.6億円

③ 販管費の削減に向けた取組み

- ▶ 事務所の統合 → 重複するエリアの事務所を統合
- ▶ 管理部門の効率化 → 要員配置の適正化、組織のスリム化

§3 2010年度業績予想

23

2010年度業績予想について

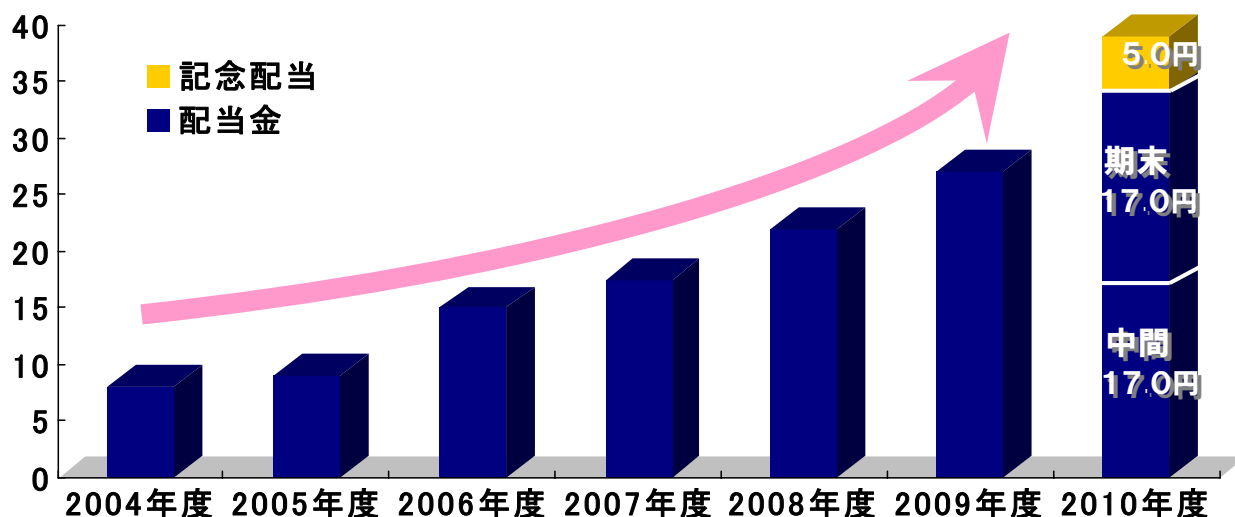
単位:百万円

	2010年度通期予想			2009年度実績	
	金 額	売上比 (%)	前期比 (%)	金 額 (実績)	売上比 (%)
売上高	181,000	100.0	129.0	140,299	100.0
営業利益	12,050	6.7	120.9	9,970	7.1
経常利益	12,105	6.7	122.1	9,912	7.1
当期純利益	6,470	3.6	118.4	5,466	3.9

24

2005年度以降6期連続の増配を目指します

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度 中間	2010年度 期末予想
配当額	8.0円	9.0円	15.0円	17.5円	22.0円	27.0円	17.0円	22.0円



2004年度 2005年度 2006年度 2007年度 2008年度 2009年度 2010年度
 ※当社は2007年12月1日付で1株につき2株の株式分割を行っております。2004年度期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合の配当金額です。

※2010年9月1日にチエルト株式会社と合併いたしました。2011年2月期(予想)の期末配当には、記念配当5.00円を含んでおります。

§4 参考資料

損益推移・大株主の状況

1. 損益推移

単位:百万円

	2006年度		2007年度		2008年度		2009年度		2010年度予想	
	実績	売比(%)	実績	売比(%)	実績	売比(%)	実績	売比(%)	予想	売比(%)
売上高	111,170	100.0	137,519	100.0	145,690	100.0	140,299	100.0	181,000	100.0
営業利益	5,576	5.0	8,330	6.1	9,946	6.8	9,970	7.1	12,050	6.7
経常利益	5,485	4.9	8,186	6.0	9,812	6.7	9,912	7.1	12,105	6.7
当期純利益	2,998	2.7	4,379	3.2	4,876	3.3	5,466	3.9	6,470	3.6

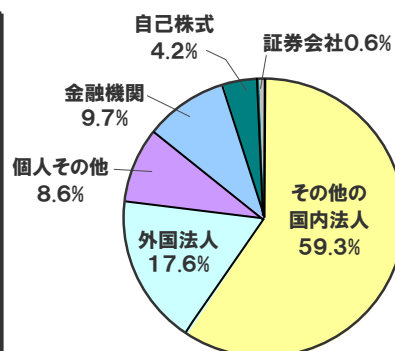
2. 大株主の状況 (上位10社)

所有比率は発行済株式に対する比率です。

順位	株主名	所有株式数	所有比率
1	(株)マイカル	23,261,800	56.2%
2	ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	1,968,642	4.8%
3	自己株式	1,729,838	4.2%
4	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	841,400	2.0%
5	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	731,400	1.8%
6	ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	657,958	1.6%
7	イオンディライト従業員持株会	644,100	1.6%
8	イオン株式会社	560,800	1.4%
9	ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	507,000	1.2%
10	イオンディライト取引先持株会	396,000	1.0%

データは2010年8月31日現在

3. 所有者区分(比率)



27

AEON delight

経営指標

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度 第2四半期
EPS(一株当り当期純利益)	110.39円	※ 122.92円	137.79円	半期)69.70円
ROE(自己資本当期純利益率)	21.03%	19.89%	18.91%	半期) 8.31%
ROA(総資産当期純利益率)	9.17%	10.11%	11.19%	半期) 5.43%
売上高経常利益率	5.95%	6.74%	7.06%	7.34%
売上高当期純利益率	3.18%	3.35%	3.90%	4.01%
総資本回転率	2.88回	3.02回	2.87回	半期) 1.35回
自己資本比率	47.43%	54.15%	64.22%	65.90%
1株当り純資産	566.87円	※ 669.28円	787.84円	849.02円
PER(株価収益率)	19.79倍	10.29倍	8.83倍	半期)22.50倍
PBR(純資産倍率)	3.85倍	1.89倍	1.54倍	1.86倍
(ご参考)期末株価	2,185円	1,266円	1,216円	1,575円

※印は株式分割後の指標で表示しております。

28

AEON delight

本日は、ご清聴頂きまして誠にありがとうございました。
ご意見・ご質問につきましては、下記にお願いいたします。

■この資料には、イオンディライトの将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。

◇これらの記述は、過去の事実だけではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定にもとづく見込みです。
そのため、実際の業績は見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知置きください。

■資料中、特に注記がない場合を除き下記の方法により記載しております。

- ◇全て連結を対象として記載
- ◇記載金額は百万円未満を切り捨て
- ◇比率は小数点第2位を四捨五入

イオンディライト株式会社
(証券コード:9787)

IR担当連絡先

部署名:ディライトコミュニケーション部

責任者名: 大 江(オオエ)

TEL 06-6260-5632

FAX 06-6260-5653

又は、ホームページよりお問い合わせください。

<http://www.aeondelight.co.jp>

※FAX送信される方は、お名前とご返答用連絡先を必ずご記入ください。

本日、ご説明した内容につきましては発表日当日(2010年10月6日)に入手可能な情報に基づき作成したものであり、
今後の様々な要因により業績予測につきましては、変更する場合がございます。